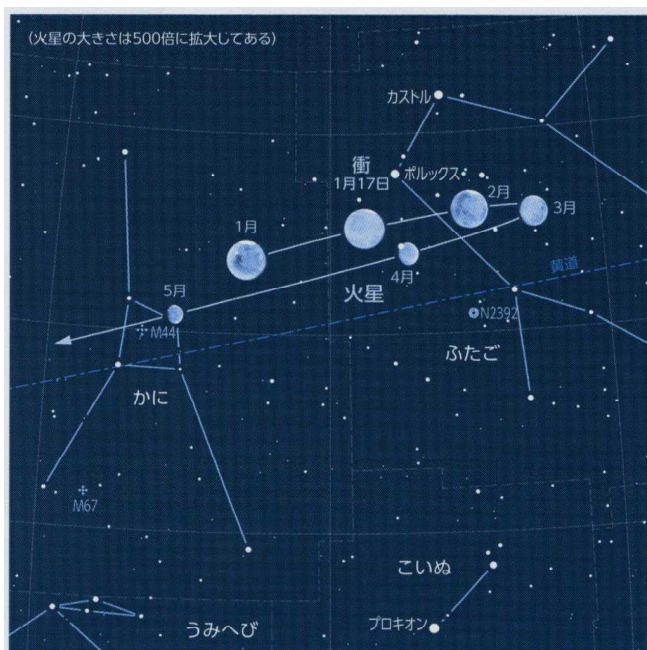


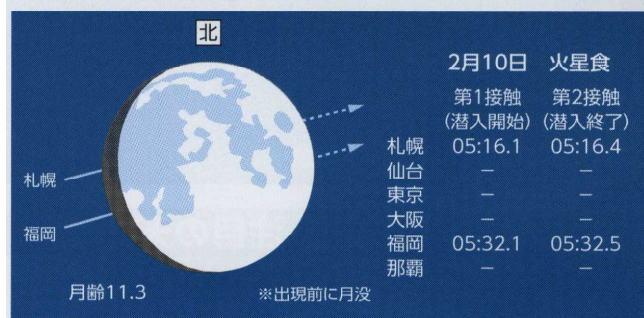
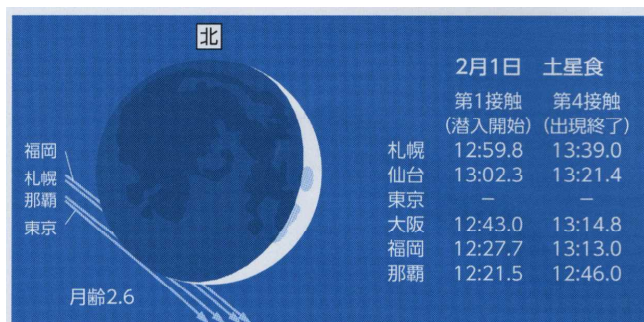
☆ 2025年の主な天文現象

★ 1月12日 火星が最接近（小接近）



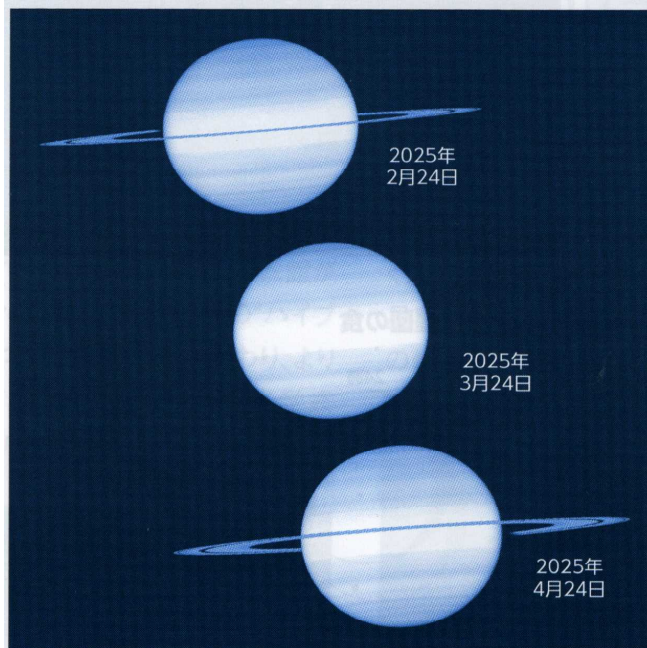
火星が1月17日にふたご座で衝となり、2年2か月ぶりに地球に近づく。12日の火星の視直径は14.6秒で、3月上旬までは視直径が10秒を超える。今回の接近は火星の北半球が春から夏に向かう時期にあたり、北極冠が見える。次の最接近は2027年2月20日で火星は遠日点に近く、視直径は最大でも13.8秒どまりだ。

★ 2月1日 土星食 ★ 2月10日 火星食



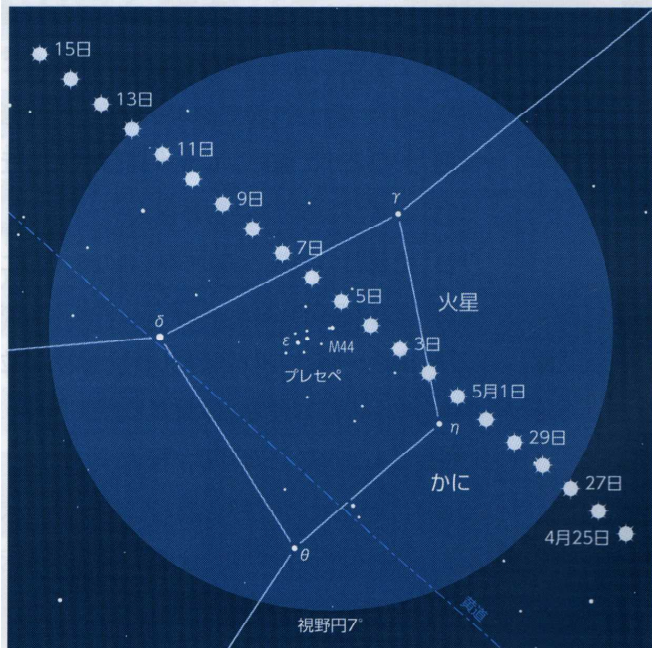
2025年に日本で見られる惑星食は3回ある。2月1日の土星食は関東地方の一部などを除く各地で見られる。2月10日の火星食は限界線が北海道～中国地方～九州北部を通り、それより南の地域では潜入前に月没になる。6月30日の火星食は北海道東部が掩蔽帯に入るが、日出後の超低空なので見るのは難しいだろう。

★★ 3月24日など 土星の環が消失



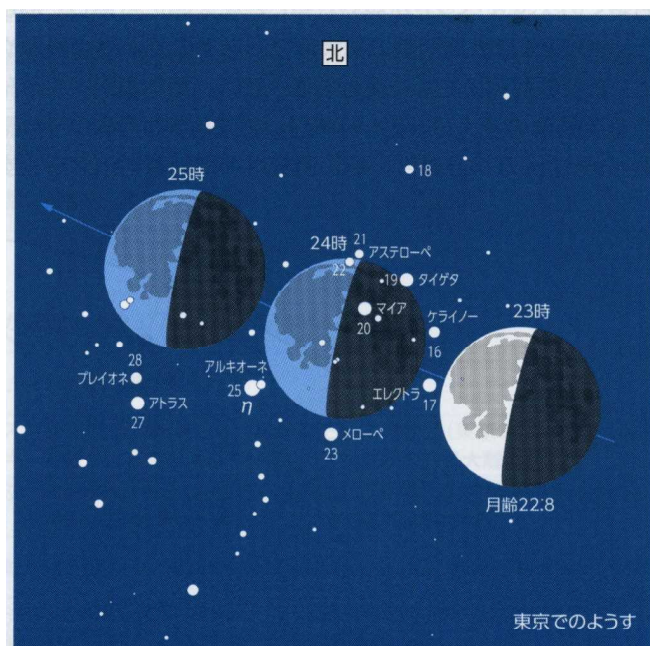
2025年には16年ぶりに土星の環の消失が起こる。3月24日には地球から見た環の傾きが0になるが、太陽に近いので見るのは難しい。5月7日には太陽から見た環の傾きが0になって環が見えなくなる。薄明中で高度は低いが、3月よりは条件が良い。11月25日にも環の傾きがごく小さくなり、好条件で楽しめる。

★ 5月5日 火星が散開星団M44に接近



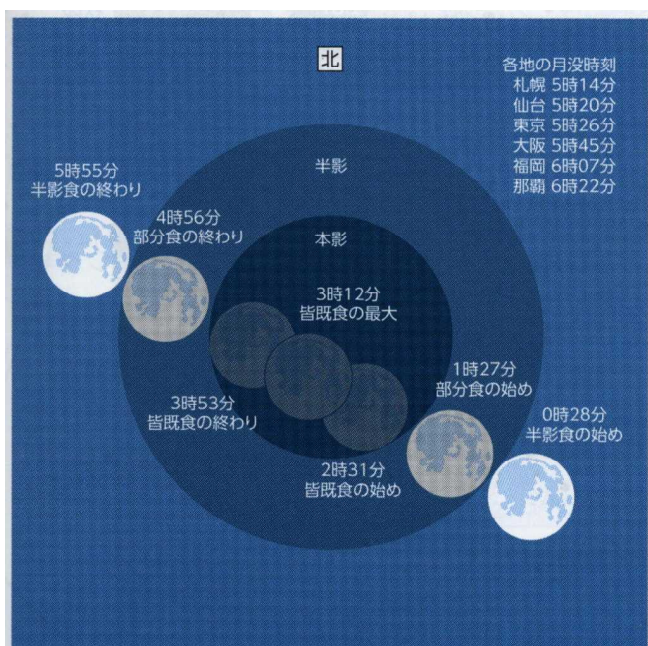
地球との接近を終え、ふたご座からかに座に移動した火星が、散開星団プレセペ (M44) に接近する。4月下旬から5月中旬までは双眼鏡の視野に火星と散開星団が同時に収まり、オレンジ色の火星と散開星団の微光星の対比が楽しめる。また、9月上旬には明け方の東の空で金星がプレセペに接近する。

★8月16日プレアデス星団の食



月がおうし座のプレアデス星団の星々を隠す現象が頻繁に起こる。日本から条件が良いのは3月5日、8月16日、11月7日、12月31日の4回だ。8月16日の食は月出後まもなく起こるが、暗縁からの出現は月の高度が高くなって見やすい。小口径の望遠鏡でも、3～4等の明るい星が月縁から次々に現れるようすが楽しめる。

★★9月8日未明に皆既月食



9月8日の未明に皆既月食が起こる。食の最大は3時12分で、最大食分は1.367。食の最大時の月の高度は関東で25度前後、北海道で約18度、九州で約32度となり、全国で部分食の終了まで見られる。3月14日にも皆既月食が起こるが、月出が部分食終了後（北海道を除く）なので、事実上の半影月食となる。

★2025年は9月8日の皆既月食、16年ぶりの土星の環の消失が注目される天文現象だ。月が惑星を隠す「惑星食」が3回起こるが、日中だったり高度が低かったりして、実際に観察するのは難しい。月がおうし座のプレアデス星団を隠す現象も頻繁に起こり、3月5日、8月16日は月が大きく見やすい。

★惑星の動き

金星 年初は「宵の明星」高度が高くよく目立つ。3月21日の内合後は「明けの明星」となる。高度が上がって目を引くようになるのは4～10月。

火星 年初の1月に地球に接近する。小接近のため視直径は14" どもり。

木星 おうし座からふたご座へ移る。24年12月8日、26年1月10日に衝となるため2025年は衝(しょう)が起こらない。秋から2026年の春にかけてが観察好期。南中高度が非常に高い。

土星 うお座で9月22日に衝となり、今年も秋から冬にかけて観望会の主役となる。2025年には16年ぶりの環の消失が起こる。何回かチャンスがあるが、11月が見やすい。

★流星群

1月3/4日 しぶんぎ座流星群がピーク
8月12/13日 ペルセウス座流星群がピーク
12月13-15日 ふたご座流星群がピーク

月の影響が無く好条件
満月の4日後、条件はあまり良くない
月が上る前の夜の前半が好条件

★8月29日伝統的七夕(旧暦七月七日)

★10月6日中秋の名月

★11月2日十三夜(後の月)

「星ナビ2025年1月号」(AstroArts)を参考にし、図もお借りしました。

★の多さは編集子の独断による注目度を表します。

NPO法人長崎県天文協会